

補足資料 新施設の前提条件

(1) 対象施設

新廃棄物（可燃ごみ）処理施設

（なお、同時に新マテリアルリサイクル推進施設を併設する予定）

(2) 事業方式

公設＋長期包括運営委託方式を予定

(3) 施設規模

- ① 処理能力：日量 120 トン（10%程度の災害廃棄物処理能力を含む）
- ② マテリアルバランス

項目	R3 (実績)		R13(推計)		R32(推計)	
	焼却量(t)	構成比(%)	焼却量(t)	構成比(%)	焼却量(t)	構成比(%)
1 紙・布類	15,986	49.4	14,889	51.0	10,501	55.4
2 ビニール・ゴム類	7,766	24.0	6,822	23.3	2,317	12.2
3 木・竹・わら類	3,236	10.0	2,822	9.7	2,302	12.2
4 厨芥類	3,204	9.9	2,794	9.6	2,279	12.0
5 不燃物類	550	1.7	479	1.6	391	2.1
6 その他	1,618	5.0	1,411	4.8	1,151	6.1
7 合計	32,360	100.0	29,217	100.0	18,941	100.0

※設定条件

- （掛川市・菊川市新廃棄物処理施設の整備に関する提言（検討結論）推計ケース 5）
 - ・生活系ごみは、平成29年度～令和3年度実績値を基に推計、令和8年度から製品プラスチックの分別回収を実施し、令和13年度までに6.0 g /人日ずつ資源に移行し、それ以降も維持するとした。
 - ・事業系ごみは、新型コロナの影響が少なくなっている傾向や人口減少の影響が生活系ごみほど大きくないことから、過去5年間の実績に基づき令和3年実績値の維持とし、令和13年度までに360 t（掛川市260 t、菊川市100 t）排出抑制し、それ以降も維持するとした。
 - ・生活系・事業系とも、令和13年度以降は、環境省の「廃棄物・資源循環分野における温室効果ガス排出実質ゼロに向けた中長期シナリオ案（拡大計画シナリオ）」に基づく試算を行った。

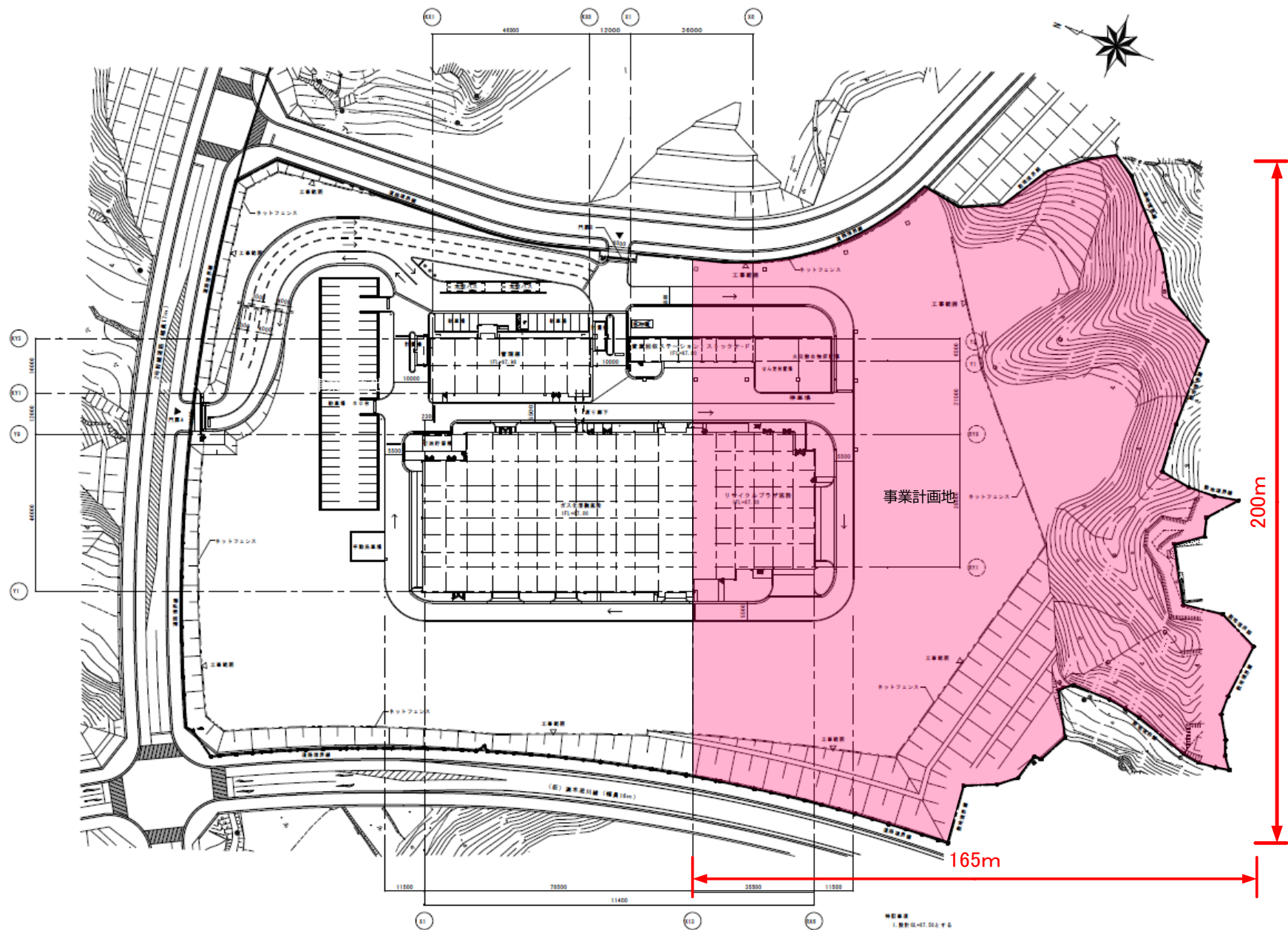
【拡大計画シナリオの主な内容】

- ・プラスチック製買い物袋有料化、バイオプラスチック類導入（令和12年度約200万 t）、食品ロス発生量について令和12年度までに平成12年度比で半減など。

(4) 整備位置

現施設の南側敷地内

◆事業計画地



(5) 現施設の取扱い

リサイクルプラザ施設は、火災により使用できないため、先行して解体。
その他施設は、新施設稼働後解体。

(6) 施設周辺整備

- ① 用水：上水
- ② 排水：公共下水道区域外
(現在は、プラント排水：クローズド、生活雑排水：合併浄化槽)
- ③ 燃料：灯油、LPガス
- ④ 受電：検討中（特別高圧受電又は高圧受電（現施設は高圧））

(7) 立地条件

- ① 都市計画：都市計画区域内
- ② 用途地域：指定なし
- ③ 防火地区：なし
- ④ 高度地区：なし
- ⑤ 建ぺい率：60%
- ⑥ 容積率：200%
- ⑦ その他：なし

(8) 想定スケジュール（建設工事期間は仮定であるが、着手時期は確定）

- ① 建設工事期間：令和 8 年 4 月 1 日～令和 12 年 3 月 31 日※設計、試運転を含む
- ② 運営委託期間：令和 12 年 4 月 1 日～令和 32 年 3 月 31 日

(9) 計画ごみ質（暫定値）

項目	単位	低質ごみ	基準ごみ	高質ごみ					
三成分	水分	%	56.2	43.1	30.1	元素組成	炭素量 c	%	57.52
	灰分	%	5.8	7.1	8.3		水素量 h	%	8.04
	可燃分	%	38.0	49.8	61.6		窒素量 n	%	1.59
	合計	%	100.0	100.0	100.0		硫黄量 s	%	0.01
	低位発熱量	kJ/kg	5,700	9,900	14,100		塩素量 Cl	%	0.96
単位容積重量	kg/m ³	140	135	110	酸素量 O		%	31.88	

※可燃分（100）に対する割合（参考値）

※設定条件

- ・平成25年度～令和4年度の環境資源ギャラリーごみ質分析結果を基に設定。
- ・発熱比を2.5とした場合の設定値。